

ここでは、2-5節で触れることのできなかつた論点と基本情報を補足します。

web 2-6 使用するデータに関する補足情報

筆者は2010年10月～2011年9月の期間に、大洋高校野球部の選手と指導者に対してインタビュー調査を実施しました。その際に、野球部卒業生の進路先等が把握できるデータを提供していただきました。本節で分析に用いるのはこのインタビューと進路先データです。

表1は、野球部員の高校卒業後の進路の内訳です。7割近い選手が卒業後に大学に進学しています。多くの選手たちが大学に進学しているのですが、その際の受験形態(どのような種類の入試を受けて進学したか)にも、強豪校の特徴が見られます。

表2は、大学に進学した選手の受験形態の内訳です。この表から明らかなように、大学進学者の約7割がスポーツ推薦を利用して進学しています。ここから、強豪校野球部からの大学進学はスポーツ推薦入試を主軸に展開されていることがわかります。

表1 大洋高校野球部員の高校卒業後の進路種類(人)

大学進学	就職	専門学校進学	進学準備・不明
67.4% (143)	26.9% (57)	3.8% (8)	1.9% (4)

表2 大洋高校野球部員の大学進学における受験形態の割合(人)

スポーツ推薦	一般推薦	指定校推薦	一般受験	合計
74.6% (106)	1.4% (2)	9.2% (13)	14.8% (21)	100.0% (142)

web 2-7 使用するデータに関する補足情報

大洋高校野球部へのインタビュー調査と並行して、筆者は全国の私立大学のスポーツ推薦入試の実施状況を調査しました。対象となる私立大学は2013年現在で全国に606校あります。そこには単科医科大学や音楽大学などが含まれているので、それらを除いた490校を分析対象にしました。490校のうち、スポーツ推薦入試の実施が確認されたのは182校(528学部)であり、私立大学全体(606校)の34.5%です。

■入試難易度と野球の強さの作成方法

入試難易度は、各大学の偏差値をランキング形式で表示しています。偏差値ランクの区分は、S=60以上、A=50～59、B=45～49、C=44以下としました。なお、この場合の偏差値は『2014年度用 大学受験案内』(学研編, 2013)に記載されている河合塾提供のデータに基づいて算出しています。

「野球の強さ」は、過去20年間の全国大会(全日本大学野球選手権大会)への出場回数を指標としています。各ランクは、Ⅰ=10回以上、Ⅱ=5～9回、Ⅲ=3～4回、Ⅳ=1～2回、Ⅴ=出場なしで区分しています。

■試合に出場できたかどうかは、進学先に影響するのか？

図1は、高校3年生の夏の大会での試合の出場状況と、最終的な進学先の入試難易度を示しています。「試合出場」は実際に試合に出場した選手、「出場なし」はメンバーには選ばれたが、試合への出場機会がなかった選手、「メンバー外」は大会メンバー不選出の選手です。

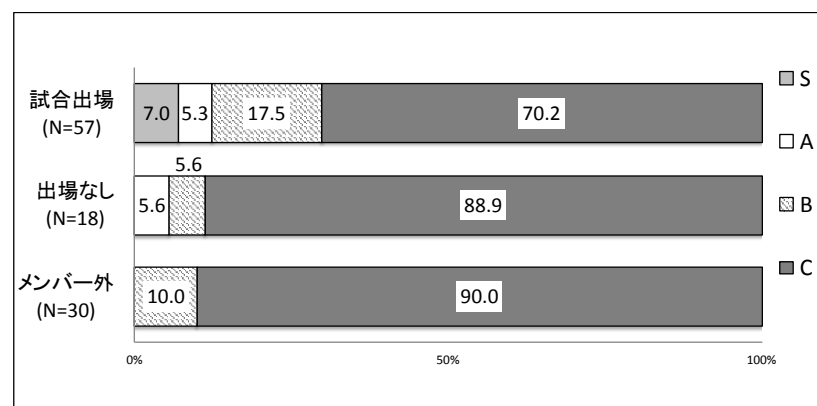


図1 大洋高校野球部員の公式戦への出場状況からみた進学先の入試難易度(スポーツ推薦利用者)(%) (N=105) (栗山, 2017より作成)

図1からは2つの点を指摘できます。第1に、入試難易度からみたスポーツ推薦による進学先の限定性です。「試合出場」、「出場なし」、「メンバー外」のいずれも、Cランクへの進学が大半を占めていることから、スポーツ推薦で進学できる大学は限定されていることを示しています。

第2に、公式戦への出場による進学先の規定性も認められます。すなわち、Aランク以上の大学への進学には、公式戦への出場か、最低でもメンバーに選出されていることが事実上の条件になっているということです(Aランク以上の大学への進学:「試合出場」(12.3%)>「出場なし」(5.6%)>「メンバー外」(0.0%))。

続いて、図2は、公式戦への出場状況と、スポーツ推薦で進学した大学の野球の強さの関係を示しています。図2からも2点を指摘できます。第1に、「出場なし」と「メンバー外」は、「試合出場」に比べて、全国大会出場経験のある大学のへの進学が大きく限定されます。「出場なし」と「メンバー外」では、それぞれ83.3%、80.6%が全国大会に出場していない大学(図中のVランクの大学)に進学しています。一方、「試合出場」では、その値は47.4%まで低下します。ここから、全国大会に出場している大学に進学するためには、高校時代の公式戦への出場が、実質的な条件になっていることがわかります。

第2に、入試難易度(図1)とは異なり、「メンバー外」でも、野球のIランクの大学には進学が可能であることがわかります(6.5%)。ただし、割合でみれば、野球のIランクに進学できる可能性は「試合出場」の方が高いことから、図1と同様に、「試合出場」かどうかが進学先を方向づけているといえるでしょう。

ここまで、公式戦への出場状況から、スポーツ推薦で進学できる大学の入試難易度と野球の強さについて検討してきました。この分析結果を読み取る上で大切なのは、「試合出場」から「メンバー外」まで、選手としての経歴を考慮する必要があるということです。この点を選手の視点から解釈すると、「自分に合った大学」に進学することの重要性に気づかされます。選手としてプロや社会人野球選手を目指して競技を継続しようとする選手と、野球は続けたいが、将来は指導者としての勉強のために継続する選手のように、大学進学後の野球継続理由は様々だと考えられます。加えて、大学で学びたい内容や学力との関連でも、進学先は多様になるでしょう。個々人の目的に合った進学先を見出すことを優先すれば、入試難易度や野球の強さという指標だけでは捉えることのできない進路選択の複雑な過程があるのです。

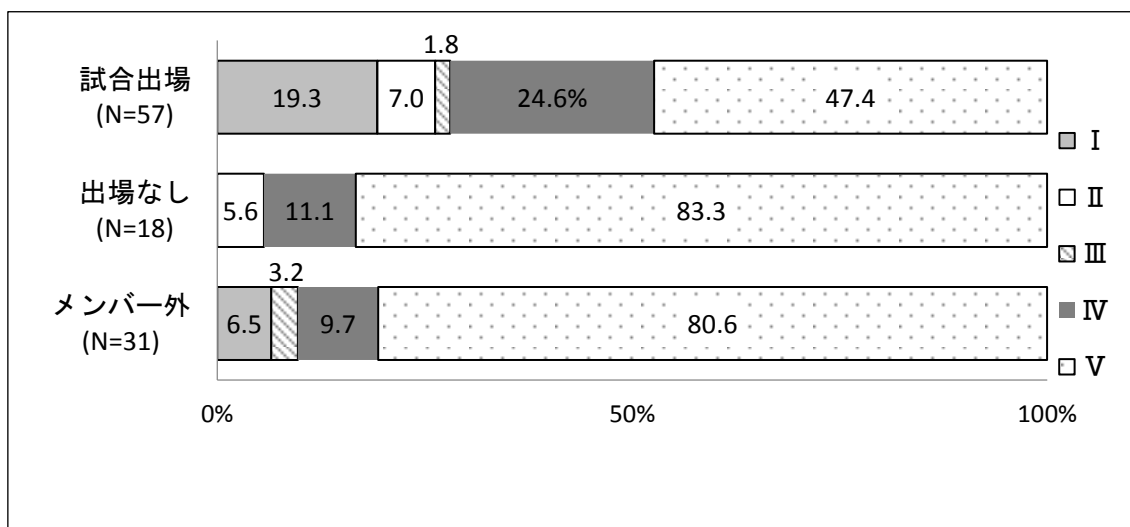


図2 大洋高校野球部員の公式戦への出場状況からみた進学先
 野球部の強さ(スポーツ推薦利用者) (%) (N=106)
 (栗山, 2017)より作成)

<引用文献>

栗山靖弘 (2017) 強豪校野球部員のスポーツ推薦による進学先決定のメカニズム

-部活を通じた進路形成と強豪校の存立基盤-. スポーツ社会学研究, 25, 1: 65-80.

学研教育出版編 (2013) 大学受験案内<2014年度用> 学研教育出版.